

■平成 30 年度「葛飾町工場物語」漫画家募集設定ストーリー

実家は金属のプレス加工を行っている町工場で、主にコンパクトカメラのボディを作っている。小さい工場ながらも定期的に受注が入り、経営は順調だった。

私は理系の大学で流体力学を学び、卒業後は大手企業に就職し水力発電の部品の設計をしている。

あるときフィルム自体にレンズのついた使い捨てカメラが発売され、一世を風靡する。そのあおりを受けて注文は激減し、さらにデジタルカメラが登場する。コンパクトカメラのボディも金属製から樹脂製に変わり、どんどん注文はなくなっていった。

そんな中、取引先の上位 2 社との取引も減少していき、たちまち父の工場は窮地に陥ってしまう。

「これも時代の流れ。工場たたむか…」寂しそうにつぶやく父。そこで私は……

※上記の設定をもとに、続きのストーリーを展開して 2 ページ のマンガを作成してください。なお、設定内容の要素をすべて描く必要はありません。

※この作品はフィクションです。実在の人物・団体とは一切関係ありません。